2021 SOPHIA UNIVERSITY

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

CLER

Center for
Language Education
and Research

上智大学　言語教育研究センター（Center for Language Education and Research）
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1　TEL：03-3238-3699

http://www.sophia-cler.jp/

上智大学 言語教育研究センター

語学力を伸ばしたい学生が、どこまでも伸ばせる環境を

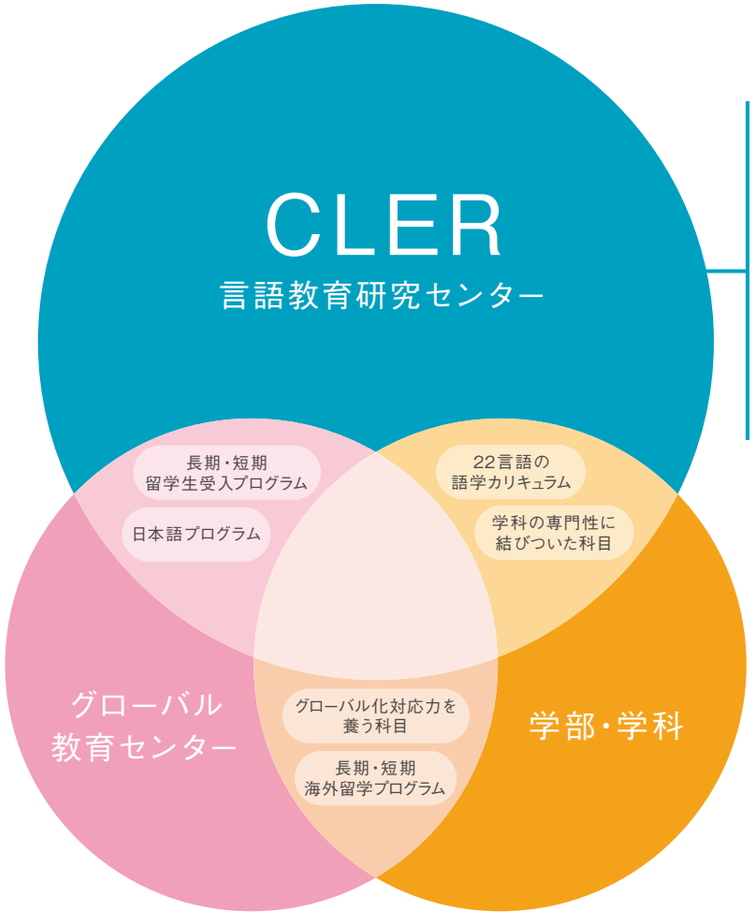
コロナ禍を体験した私たちは、周りの人々との絆の大切さ、そしてオンラインを通じた世界の距離の近さを再認識しましたが、そこで何よりも大切なのはコミュニケーションです。また、世界が今日抱えている諸問題は、対立ではなく、対話を通した協調でしか解決できなくなっています。そのような対話を実現するため、共通語となっている英語の必要性はますます高まっています。そして、グローバル化が進み、多言語・多文化が当たり前になった世界では、ある特定の国や国民とより深いレベルで対話をするためには、英語だけでなく、その国で話されている言語が使えることも重要です。

様々な外国語を学び、それを通して多くの文化や価値観に触れる機会を得ることは、今後のグローバル社会に生きる日本人には不可欠です。上智大学言語教育研究センターは、国際的に活躍する人材の育成を目指し、外国語教育の質的充実を推進するため2012年4月に開設されました。22言語の科目を擁し、各言語のカリキュラムを充実させ、学生のニーズに合った学びの機会を提供しています。また、Language Learning Commons（LLC）を運営し、外国語コミュニケーショングループ、学習アドバイザー制度、ライティング・チューター制度、e-learning等の様々な制度を導入し、授業外での語学教育の充実を図っています。言語教育研究センターは、上智大学における、真のグローバル人材を育成するためのもっとも重要な役割を担っているのです。

上智大学言語教育研究センター長

藤田 保

上智大学外国語学部比較文化学科（現、国際教養学部）卒業。同大学院言語学専攻博士前期課程修了。専門は応用言語学（バイリンガリズム）と外国語教育。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学とあらゆる校種の現場で英語教育の実践に関わると同時に、文部科学省や教育委員会等で行政的観点から英語教育制度の改善にも携わっている。



P.3 CLERの取り組み
P.4 LLC (Language Learning Commons)
P.5 CLIL (Content and Language Integrated Learning)
P.7 選べる20の初習言語
P.9 日本語教育カリキュラム

上智大学で学べる22言語

- 英語
- 日本語

初習言語

ドイツ語	フランス語	イスパニア語	イタリア語
中国語	コリア語	ロシア語	ポルトガル語
インドネシア語	フィリピン語	アラビア語	タイ語
ペルシア語	カンボジア語	ビルマ語	トルコ語
ベトナム語	ヒンディー語	スワヒリ語	ラテン語

教員数 ※2021年4月現在

専任教員	15名
特任教員	4名
嘱託講師	24名
非常勤講師	227名

開講科目数・履修者数（延べ） ※2020年度

英語	340科目	履修者 6,354名
初習言語	417科目	履修者 7,983名
日本語	91科目	履修者 670名

言語教育の理論から実践まで

CLER（言語教育研究センター）の取り組み

●カリキュラム開発
上智の語学教育の根幹となるカリキュラム開発。英語・日本語・初習言語の3つのカリキュラム委員会が支えています。

●海外短期語学講座の開設
長期休暇を利用した短期の語学留学プログラムを、英語、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、イタリア語、中国語、コリア語、ポルトガル語など多数開講しています。

●交換留学海外英語集中講座
1学期間、交換留学協定校で行われている語学プログラムに参加し、英語を集中的に学びます。

●TEAP (Test of English for Academic Purposes)
大学で必要とされるアカデミックな場面での英語運用力を正確に測ることを目的として、公益財団法人日本英語検定協会と共同で開発したテスト。2015年度から一般入試でTEAP利用型入試が導入されています。1年次生は入学後のプレイスメント・テストとして受験し、1年次終了前に効果測定のため4技能テストを受験します。

●LLC (Language Learning Commons) の運営
授業外での語学学習の充実を図るため、さまざまなサービスを提供しています。→詳しくはP.4

●Lingua
年1回発行される査読付きジャーナル。CLER所属教員が、学術論文や教育実践例を発信しています。CLER主催のシンポジウムや講演会の記録なども掲載しています。

●FD（Faculty Development）活動
英語専任教員を中心としたカリキュラムに係るワークショップを月1回開催し、授業運営の方法やCLIL（Content and Language Integrated Learning）を取り入れた授業等について情報を共有しています。また、各分野の専門家を招き、定期的にシンポジウムや教員研修を実施するほか、外部機関と連携した外国語教育に関わる教員向け研修会を開催しています。

実施例:
- CLIL/EMI Connecting Secondary School Language Education to University Language Education（英語）
- 日本語中級学習者の学びと教師の役割（日本語）
- 初級者を対象としたCLILと外国語教育（2）カリキュラムに対する教師の意識改革とその実践（初習言語）

●上智大学全国高校生英語弁論大会 ジョン・ニッセル杯
創立100周年記念事業企画として2011年度より開催。日本の高校に通う高校生なら、国籍、留学、海外在住経験不問で参加できる全国屈指のハイレベルな大会です。

※2020年度…応募者数294名、本選出場者20名

●上智大学留学生日本語スピーチコンテスト
本学で日本語を学ぶ留学生に、学習成果を公の場で発表する機会を与え、日本語学習に対する意欲や能力の向上につながるよう、2017年度より開催しています。

※2019年度…応募者数30名、本選出場者10名

上智の語学は授業以外でも鍛えられる

LLC (Language Learning Commons)

LLCは、授業以外での語学学習の充実を図るため、さまざまなサービスを提供しています。
語学学習の意欲を高め、授業や学生生活に還元できるような企画や取り組みが行われています。
学生は、学習に役立つ書籍を借りたり、DVDを視聴したりすることもできます。

●外国語コミュニケーショングループ
指導員の学生による会話中心の週1回のグループレッスン。スピーキングやリスニングの力を鍛えることができます。

対象言語:英語、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、イタリア語、中国語、コリア語、日本語

●ライティングチューター制度
事前にトレーニングを受けた学生チューターが論文やレポート作成をアドバイス。指導を通して語学力を向上させるための取り組みです。

対象言語:英語、日本語

●Language Exchange
日本語を学習中の留学生と、外国語を履修中の日本語話者が交流するランチタイムイベントです。

対象言語:ドイツ語、フランス語、イスパニア語、イタリア語、中国語、コリア語

●語学検定試験等対策講座
長期休暇中にTOEIC，TOEFL iBT，韓国語能力試験等の対策講座を開講しています。

●英語学習アドバイザー制度
英語圏への留学や就職に向けた英語力アップの相談のほか、スピーキングやリスニングといった苦手スキルの克服方法など、プロのアドバイザーが効率的な学習方法を伝授。英語の各種試験対策ミニ講座も担当しています。

●学習アドバイザー制度（初習言語）
CLER所属の教員が資格試験対策を含む、外国語の学習方法全般に関する相談に応じます。

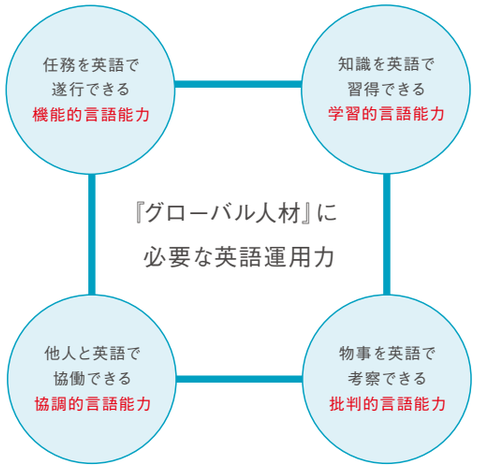
対象言語:ドイツ語、フランス語、イスパニア語、イタリア語、中国語、コリア語

●eラーニング教材「ALC NetAcademy NEXT」
英語の自主学習に活用できるeラーニング教材を提供。語彙力を高め、TOEFLやTOEICなどの試験のスコアアップを目指します。

「英語」を学ぶ教育から
「英語」を使いこなす教育へ

CLIL(Content and Language Integrated Learning)

言語教育研究センターでは、グローバル人材に必要とされる英語運用力を高めるため、CLIL(Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習)の手法を取り入れた必修科目と、幅広い分野からなる選択科目を用意しています。CLILとは、学術分野の知識と言語能力を同時に向上させる最新アプローチとして、ヨーロッパ・アメリカ・アジア各国で盛んに実践され、研究されています。上智大学は日本最大のCLIL研究拠点として、学生が外国語を使って自らの考えを論理的に構成し、発表し、更に議論できる素地を育成することを目標に、英語カリキュラムを設計しています。



履修例

在学中に留学に行き、卒業後は国際関係の仕事に就きたい学生

1年次

［必修］Academic Communication(AC)1・2
［選択］TOEFL Preparation（試験対策）

AC 1で学問研究に必要なスキルを英語で学びます。AC 2では、CLILによる学習を行います。3年次秋から交換留学することを見据え、試験対策にも力を入れます。

2年次

［選択］TOEFL Preparation（試験対策）
［選択］History in English

留学に向け、引き続きTOEFL受験に備えます。また、留学先の国の歴史が扱われている、History in Englishを履修することにしました。英語で歴史について学び、英語力も知識も向上させることを目的としています。

3年次

［選択］Cross-Cultural Communication in English
［選択］English for Interpreters

留学の際に異文化交流を実践できるよう、学問的な見地から異文化間コミュニケーションを学びます。また、外国語で発信されたことを、自分だけが理解できるようにするだけでなく、他の人にも伝えられるよう、通訳の勉強もすることにしました。秋学期はいよいよ留学です。

4年次

［選択］General Business English
［選択］Academic Writing

卒業後は国際関係の仕事に就きたいと考え、Business Englishを在学中に学んでおくことにしました。また、卒業論文は英語で書くことにし、学問的な論の進め方にも磨きをかける必要があるため、Academic Writingも履修します。

英語カリキュラムの流れ

入学時、TEAPを受験。結果に応じてクラス分け。

■1年次　必修科目の履修

英語で学び考える academic skills の習得

春学期
ACADEMIC COMMUNICATION 1

講義ノートの取り方、ディスカッションやプレゼンテーションの技法、小論文の書き方、効果的な情報収集の方法など、アカデミックな英語運用力を高めます。学生の習熟度に合わせて6レベル展開しています。

秋学期
ACADEMIC COMMUNICATION 2

春学期で身につけたスキルをもとにCLILを実践し、学術分野の内容について英語で理解を深めながら、語学力を向上させ、批判的思考力を鍛え、協働力を磨きます。

TEAPを再受験。習熟度を測定

■1年次後半～4年次

英語で専門性を高める specific skills の習得

学生は、自分の学習計画やニーズに応じて、4つの群から成る選択科目を自由に履修します。

ACADEMIC ENGLISH

CLILの手法を用い、アカデミックな科目を体系的に英語で学びます。
科目例）Psychology,International Relations,Economics, Environmental Issues

PROFESSIONAL ENGLISH

専門職で必要な英語を身につけ、仕事上必要な表現を学びます。
科目例）English for Interpreters, Translators, Journalism, International Trade,

PRACTICAL ENGLISH

日常生活で使用される英語や資格・能力試験に対応したスキルを学びます。
科目例）General Business English, English for Negotiations, TOEFL Preparation

Advanced+ ENGLISH

一定以上のレベルの英語力を持つ学生で、ACADEMIC COMMUNICATIONの単位認定を申請するレベルの学生対象の科目です。
科目例）Writing as Thinking

使えることばの数だけ
世界のとびらが開く

選べる20の初習言語

複言語主義（Plurilingualism）が提唱され、浸透しつつある今日、世界の多様性を理解し、グローバル社会に対応するためには、母語と英語に加えてもう一つ言語を習得することの必要性がますます高まってきています。大学を卒業した学生がこれから飛び込んでいくのは、様々な国と地域から集まった人々が同じテーブルにつき、お互いの文化的背景を尊重しながら議論を進めることがあたりまえの社会なのです。

上智大学では、英語・日本語の他に20の言語（初習言語）を学べます。言語教育研究センターでは、各学生が目的と必要に応じて選択して学べるようにカリキュラムを設計しています。そして、知識を習得し、言語運用能力を育成するだけでなく、その言語を話す人々や文化を理解することを目標とし、さらに卒業後も社会で活用していける力を身につけることを目指しています。

カリキュラムについて

ドイツ語、フランス語、イスパニア語、イタリア語、中国語、コリア語の6言語は、週2回開講の総合科目が開講されています。これは、個人やペア、グループで行うさまざまなアクティビティーなどを通して、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランス良く身につけ、総合的なコミュニケーション能力を伸ばすことを目標とするものです。また他にも、スキルアップ、ことばと文化、検定対策講座などが選択科目として開講されているため、各自の目的と興味に応じて履修することができます。

総合科目が開講されていない言語は、各言語の特性に応じて、複数の科目を組み合わせて履修することで学習効果が高まるようにカリキュラムが組まれています。

夏と春の休暇中に開講される海外短期語学講座も、履修している言語の運用能力を向上させたり、その言語を話す地域の文化を直に学ぶ機会として、多くの学生が参加しています。

履修例1　Aさんの場合

文学部史学科の学生。ドイツの近現代史を研究しており、ドイツ語で書かれた文献を原書で読めるようになりたい。
また、ドイツ語圏への短期留学にも挑戦し、4年間でドイツ語を極めたい。

1年次
- ドイツ語総合1,2（初級）
- ドイツ語演習Ⅰ（文法・読解）

→ **2年次**
- ドイツ語総合3,4（中級）
- 海外短期語学講座（ドイツ語圏）

→ **3年次**
- ドイツ語上級
- ドイツ語演習Ⅱ（文法・読解）

→ **4年次**
- ドイツ語上級
- ドイツ語圏のことばと文化

履修例2　Bさんの場合

総合グローバル学部の学生。アフリカについて専門的に学びたいと考えていて、地域言語としてスワヒリ語を身につけたい。
将来は国際機関で働きたいので、国連の公用語であるフランス語も話せるようになりたい。

1年次
- スワヒリ語初級1,2

→ **2年次**
- スワヒリ語中級1,2
- フランス語総合1,2（初級）

→ **3年次**
- フランス語総合3,4（中級）
- 海外短期語学講座（フランス語圏）

→ **4年次**
- フランス語上級
- フランス語圏のことばと文化

履修例3　Cさんの場合

外国語学部英語学科の学生。語学に興味があり、卒業までにできるだけ多くの言語を使えるようになりたい。
まず中国語から始め、2年次からイタリア語、3年次からコリア語にも挑戦。
卒業前に、学んだイタリア語の知識が活かせるイスパニア語の学習も始めることにより、卒業後の外国語学習の基礎としたい。

1年次
- 中国語総合1,2（初級）
- 海外短期語学講座（中国語圏）

→ **2年次**
- 中国語総合3,4（中級）
- イタリア語総合1,2（初級）

→ **3年次**
- 中国語上級
- イタリア語総合3,4（中級）
- コリア語総合1,2（初級）

→ **4年次**
- コリア語総合3,4（中級）
- イスパニア語総合1,2（初級）

留学生には
日本語は外国語です

日本語教育カリキュラム

本学では、欧米・アジア諸国をはじめ世界中の国々からの留学生が学んでおり、日本人学生への良い刺激となって、キャンパスのグローバル化に欠かせない存在になっています。そのような留学生には、生活上、学業上の必要性から、さらには将来のキャリア構築のために日本語学習が不可欠です。言語教育研究センターでは学習者のニーズに応じ、さまざまな科目を提供し、日本語の運用能力を高めることを目指しています。また、日本語プログラムのもう一つの使命として、帰国生、海外育ち、インターナショナルスクール出身など学習背景が多様化している日本人学生の日本語学習にも力を入れています。

学生は、各学期初めに実施されるプレイスメント・テストを受験し、適切なレベルのクラスから履修を始めます。科目は日本語ネイティブ、ノンネイティブ用それぞれ用意されており、異なるバックグラウンドの学生が、自身の学習歴に合った科目を履修できます。

1. Regular Program

英語で授業を受ける国際教養学部などに在籍する短期の留学生や、英語で学位を取得するプログラムで学ぶ外国人正規生のために、初級から上級までの日本語科目が開講され、日常生活レベルから、職場である程度のコミュニケーションができるまでのレベルの日本語の習得を目指しています。

2. Intensive Program

主として日本語を勉強する目的で来日した留学生には、週10コマの集中コースが初級から上級まで4科目開講され、十分な時間を日本語学習に充てることができます。また、2015年度からは漢字圏からの留学生向けの集中講座も開講しました。

3. Specialized Japanese Courses

日本語のレベルがすでに高い留学生は、さらに上のレベルの日本語科目を履修することができます。将来のキャリアに備え、ビジネス日本語や翻訳の科目を履修し、卒業後、実社会で必要な日本語の習得を目指しています。

4. Academic Japanese

日本語で授業を受ける学部に在籍する正規生、あるいは、さらに高いレベルの日本語能力を身につけたい短期留学生のために、学部や大学院の専門科目への橋渡しとして、日本語によるアカデミック・スキルを強化する科目を開講しています。

5. Courses for Native Speakers of Japanese

国際教養学部に在籍する日本語を母語とする学生、および他学部の帰国生などの中で、日本の文部科学省の教育制度下の国語教育を受ける機会が少なかった学生は、特に読み書きに重きをおいた日本語科目や、大学生にふさわしい日本語能力を身につけるためのネイティブ用の日本語科目を履修することができます。

履修例1　Aさんの場合

日本語ノンネイティブで、自分の国では中級レベルまで学習した。
さらに上級を目指して日本語を集中的に学ぶため、上智大学に留学。
将来的には日本の企業に就職し、職場で使える日本語を習得したい。

Intensive Japanese 4

上級レベルの日本語習得を目的とし、現代日本やグローバル社会や文化に関する読み物や視聴覚教材を理解し、内容をまとめ、意見を言ったり書いたりできるようになることを目指す。

→

Business Japanese 2

グローバル社会における異文化間コミュニケーションスキルとともに、ビジネス日本語力をさらに向上させる。ケーススタディやロールプレイ等、問題解決のための実技を行う。

↓

日本のビジネス文化やビジネスの場における異文化への対応力を身につけ、グローバル企業での活躍を目指す。

履修例2　Bさんの場合

日本語が母語で日常会話は出来るが、海外の現地校に通っていたので、読み書きの技能が不足している。
在学中に、日本の大学生相当の日本語を身につけたい。

Reading & Writing　(Basics, 1～3)

リテラシースキルの習得を目指し、漢字や熟語の用法を学びながら、読解や作文を行う。日本人が高校生までに身につけるリテラシースキルのレベルに到達できるようにする。

→

Japanese Literacy 1, 2

日本人の大学生と同等の日本語のリテラシースキルを身につけるために、さらに読解力や作文、学術的・専門的なトピックに関する口頭発表能力を磨く。

↓

日本人大学生相当のリテラシースキルを身につけ、卒業後、社会人として通用する日本語を習得する。